

「炭酸水」と「二酸化炭素水」の違い

皆様は、日ごろ慣れ親しんでいる「炭酸水」というものが、実は「二酸化炭素水」と呼ぶ方が化学的には適切であることをご存知でしょうか？確かに、「炭酸水」は高圧の二酸化炭素ガスを水に吹き込むことによって作られ、実際、液性は酸性になりますが、理科の授業で習うような典型的な酸である塩酸が示す酸性とはその仕組みが全く異なっています。二酸化炭素は、水の中に吹き込まれると、まず水の中に溶解込み、その後、「ほんの一部」が「ゆっくり」と水分子と反応して初めて炭酸が生じます。この炭酸が酸性を示す原因物質なのです。「炭酸水」の中に含まれているのは水以外ほとんど二酸化炭素で、炭酸となっているのは1%もありません。・・・